

用語解説

あ行

◇ICT

Information and Communication Technology の略で「情報通信技術」をいう。IT (Information Technology) とほぼ同じ意味を持つが、コンピューター関連の技術を「IT」、コンピューター技術の活用に着目する場合は「ICT」と区別して用いる場合がある。

◇ICU/CCU (集中治療室)

Intensive Care Unit の略で「集中治療室」をいい、呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者さんの容態を24時間体制で管理し、より効果的な治療を施すことを目的とする。そのうち、循環器系、特に心臓血管系の疾患を抱える重篤患者を対象としたものをCCU (冠疾患集中治療室: Coronary Care Unit) という。

◇IVR-CT

Interventional Radiology- Computed Tomography の略で、画像診断 (X線透視装置、超音波、CT、MRI など) を施行しながら、主にカテーテルテクニック、または穿刺術を利用した治療 (「カテーテル治療」「血管内治療」という) を行う装置とコンピューター断層撮影 (CT) 装置を兼ね備えた、血管内治療を安全かつ効率よく実施することを可能にした高度医療器械

◇医師の働き方改革に関する検討会 報告書

医師の働き方改革に関する検討会において、平成31年3月28日に取りまとめられた報告書。他職種と比べ長時間労働の実態がある医師について、労働時間管理の適正化、タスク・シフティング、ICTの活用等による労働時間短縮の推進などを目指すこととしており、あわせて令和6年(2024年)4月以降に適用される時間外労働の上限が示された。具体的には通常予見される時間外労働の上限については、一般労働者と同等である月45時間、年360時間としているものの、「臨時的な必要がある場合」の時間外労働については、月100時間未満、年960時間以下とする基準のほか、地域医療の観点で踏まえ、三次救急医療機関等については月100時間未満、年1,860時間以下とするなど複数の基準を設けている。

◇ADL

Activities of Daily Living の略で、「日常生活動作」と訳される。日常生活を営む上で、普通におこなっている行為、行動のこと。具体的には、食事や排泄、整容、移動、入浴等の基本的な行動をいう。リハビリテーションや介護の世界で一般的に使われている用語の一つで、要介護高齢者や障がい者等が、どの程度自立的な生活が可能かを評価する指標としても使われ、例えば「ADLが自立している」という場合は、普通は介護を必要としない状態をいう。

◇X線CT装置

CTとは、Computed Tomography の略で「コンピューター断層診断装置」をいう。X線CTは、X線検査の立体版で、X線照射した後にコンピューターで2次元画像を作り出すことができる。MRIと比べ、広い範囲の検査や骨や肺の状態を観察したい場合、全身を短時間で撮影する場合に適している。しかし、CTは多少なりとも放射線被ばくがあり、また空間分解能ではMRIに勝るが、病変と正常組織の濃度の差(コントラスト)ではMRIに劣る。

◇NICU (新生児特定集中治療室)

Neonatal Intensive Care Unit の略で、新生児に特化した専用のICU (集中治療室) をいう。早産児や低出生体重児、または何らかの疾患のある新生児が対象で、一般のICU以上に細菌感染などを防ぐために、新生児を一人ずつ保育器の中で厳重に管理し、呼吸や循環機能の管理といった専門医療を24時間体制で提供する。

◇MRI

Magnetic Resonance Imaging の略で「磁気共鳴画像診断装置」をいう。磁気を利用して、体内の水素原子の量と、水素原子の存在の仕方を画像化することで体の臓器や血管を撮影する装置で、脳や筋肉など水分の多い箇所画像診断に適している。また、CTと違い、放射線被ばくの心配がないので、繰り返す検査に適しているほか、病気と正常組織とのコントラストがCTよりも明確であり、横断像のみでなく、縦や斜めからと任意の断面を得ることができる。一方で一部を撮影するのに約30分程度の時間を要するほか、1回に検査できる範囲が狭く、骨の変化が分かりにくいと、全身を撮影するには向いていない。また、狭く大きな音のする空間に長時間いる必要があるため、閉所恐怖症の方には不向きであるほか、磁石を使うため、金属やペースメーカーなどが体内に入っている場合は検査に適さないなどの制限がある。

◇温冷配膳車

最適な温度で食事を提供できるよう保温・保冷機能を持つ食事の運搬用台車

か行

◇化学療法

抗がん剤を用いたがんの治療法。他の治療法、例えば手術療法、放射線療法と対比する場合に使われる。

◇患者生体情報モニタ

心電図・呼吸・体温・血圧などの患者さんの生体情報を映すシステムで、複数の患者さんの情報をスタッフステーションなどに設置されたモニタで一括して確認することができる。

◇がん診療連携拠点病院

地域におけるがん診療連携の拠点病院としての役割を果たすことのできる専門的医療体制（がん専門医、放射線治療医、精神科医などの専門医、精神保健福祉士などのケアに関わる専門家、無菌病室や放射線治療施設、医療機器、がん登録システム、研修体制、情報提供体制等）を有する病院をいう。

◇緩和ケア

がんと診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケアをいう。

◇企業債

地方債（地方公共団体が1会計年度を超えて行う借入れ）の一つで、交通、水道、病院などの地方公営企業の事業資金を調達するために地方公共団体が発行するものをいう。

◇基本領域専門医

一般社団法人日本専門医機構に、公の資格として認証された「専門医（それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識、経験を持ち、患者さんから信頼される標準的な医療を提供できる医師）」のうち、基本的な19の医療領域において、必要な研修プログラムを経て認証された医師のことをいう。

◇救急救命士

病院への搬送途上に限り、傷病者に対し救急車等にて救急救命処置を施し、速やかに病院へ搬送することを目的とした国家資格の名称をいう。

◇救急ワークステーション

消防と病院が連携し、医療機関に救急隊を派遣し、平時は救急隊員の病院実習を行い救急医療に関する知識及び技術の向上を図る一方で、救急出動時には必要に応じて医師や看護師が救急車に同乗し、現場で必要な救命措置を行うことで救命率の向上を図ることを目的とする事業をいう。

◇急性期一般入院料 1

入院患者 7 人に対して、常時看護師 1 人以上を配置することで算定できる入院基本料をいう。手厚い看護体制であり、高度医療への対応、医療安全の確保を図ることができる。一般病棟で、看護配置、看護師比率、平均在院日数その他の事項につき厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして、保険医療機関が地方厚生局長等に届け出た病棟に入院している患者さんについて、当該基準に係る区分に従い、所定の点数が定められている。この施設基準の要件の一つに、「重症度、医療・看護必要度」がある。

◇急性期病院

病気や怪我の症状が一番激しい時期（急性期）の患者さんを受け入れる病院をいう。ほかに、治療により症状が一段落し回復に向かう時期を「亜急性期（回復期）」、症状が安定した時期を「慢性期」という。

◇救命救急センター

急性心筋梗塞（こうそく）や脳卒中、重度の外傷・熱傷などの重症及び複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を 24 時間体制で受け入れる三次救急医療施設をいう。初期救急や二次救急では対応できない、生命の危機を伴う重症・重篤な救急患者に対する救命措置や高度な医療を総合的に行うこととされており、初期救急・二次救急医療施設及び救急搬送機関からの救急患者は、原則として 24 時間必ず受け入れなくてはならない。そのため、これに対応できる設備や、重症で複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者に対応できる専門医の配置等が求められている。

◇救命救急入院料

意識障害や大手術を必要とするなど重篤な患者さんに対して、救命救急医療が行われた場合に算定できる入院料。救命救急センターが設置されていることや重篤な救急患者に対応できる人員、装置、器具が備わっているなどの施設基準を満たす保険医療機関において算定することができる。

◇クラウドファンディング

群衆（crowd）と資金調達（fundraising）を組み合わせた造語で、不特定多数の人に、インターネットなどを通じて、資金の提供を呼び掛け、賛同した人から資金を集める方法

◇KPI（重要業績評価指標）

目標達成のために、具体的な業務プロセスをモニタリングするために設定される定量的な指標（業績評価指標：performance indicators）のうち、特に重要なものをいう。一般的には「引合案件数」「訪問回数／商談期間」「成約率（受注率）／歩留率」「平均受注単価」「解約件数」などがある。これを一定期間ごとに実績数値を計測し、プロセスの進捗を管理する。

◇外科手術用 C アーム型 X 線撮影装置（フラットディテクター型デジタルイメージングシステム一式）

透視（X 線画像を動画で映し出す）機能を持ち、リアルタイムの X 線画像を抽出することのできる装置。可動性があり、アーム部分も回転できるため、あらゆる角度から X 線撮影できる特徴を持ち、手術中でも X 線撮影が可能。何度も手術中に X 線撮影をする場合でも撮影室に移動する必要がなく、簡便に、より正確な手術を実施することができ、手術時間の短縮も可能

◇合計特殊出生率

15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に産むと考えられる子どもの数のこと

◇高度急性期

急性期のうち、病気や怪我の症状が重度のものをいう。高度急性期病院とは、高度・専門的な入院医療を提供し、重度の急性期疾患に対応する機能を有する病院をいう。

◇後発医薬品

これまで有効性及び安全性が実証されてきた新薬と同等と認められた低価格な薬をいい、「ジェネリック医薬品」ともいう。国民医療費の削減及び患者負担の軽減に貢献するものとされている。

◇後発医薬品使用体制加算

後発医薬品の品質、安全性、安定供給体制等の情報を収集・評価し、その結果を踏まえ後発医薬品の採用を決定する体制が整備されている保険医療機関を評価した加算。当該保険医療機関における後発医薬品のある先発医薬品及び後発医薬品を合算した数量に占める後発医薬品の割合により加算できる点数が異なる。

さ行

◇災害拠点病院

災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための病院をいう。緊急対応できる体制があり、被災地内の患者さんの搬出・受入れなどを行う。

◇災害派遣医療チーム（DMAT）

Disaster Medical Assistance Team の略で、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場で、急性期（おおむね48時間以内）から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームをいう。

◇採血管準備システム

採血管を自動的に選択し、検体ラベルを貼りつけることで人為的なミスをなくすとともに検査の効率化を図るためのシステム

◇GCU（継続保育治療室）

Growing Care Unit の略で「回復治療室」「発育支援室」ともいう。NICU（新生児特定集中治療室）での治療で、低出生体重から脱した赤ちゃんや状態が安定してきた赤ちゃんなどがこの部屋に移動して引き続きケアを受ける。

◇施設基準

診療行為の中には、保険医療機関が一定の人員や設備を満たし届け出ることによって初めて診療点数を算定できるものがあり、この満たすべき基準のことをいう。点数表とは別に厚生労働大臣告示や通知で示される。

◇自動注腸器

注腸検査（カテーテルを肛門から直腸内に挿入し造影剤を注入し、大腸に異常がないかX線撮影をする検査）は、バリウムと空気によって画像コントラストをつける二重造影が主流だが、そのためには、造影剤及び空気の注入量を把握する必要がある。自動注腸器は、この造影剤と空気の注入排泄を機械的に行うことで、注入量を把握し、腸各部の形態をきめ細かく観察でき、病巣形態やその有無を把握することができるほか、検査後に腸内にバリウムの残渣を極力残さないように吸引することで、検査後のリスクを減らすこともできる。また、造影剤と空気の注入排泄を遠隔から管理することができるため、術者や介助者の被ばくをなくし、検査を行うことができる。

◇資本的収支

公営企業会計において、施設の建設改良に関する投資的な収入と支出で、企業の将来の経営活動の基礎となり、収益に結びついていくものをいう（⇔収益的収支）。

◇社会医療法人

医療法人のうち、医療法第42条の2第1項各号に掲げる要件に該当するものとして、政令で定めるところにより都道府県知事の認定を受けたものをいう。これまで自治体病院等が担ってきた公益性の高い事業について、民間医療機関のノウハウを活かすことで、より効率的に取り組めると考え、制度化されたもので、その認定を受けると税制上の優遇措置が受けられるほか、収益業務を行うことができる。

◇社会保障制度改革国民会議

社会保障制度改革推進法に基づき、社会保障制度改革を行うために必要な事項を審議するため、内閣に設置された政策会議をいう。平成24年11月から平成25年8月にかけて20回にわたり会議が行われ、平成25年8月6日に報告書が取りまとめられた（平成25年8月21日に廃止）。

◇収益的収支

公営企業会計において、日々の営業活動に必要な経費をいう（⇔資本的収支）。

◇周産期医療

周産期とは主に妊娠22週から生後満7日未満までの期間をいう。この期間は合併症の発症や分娩時の急変など、母子ともに身体・生命にかかわる事態が発生する可能性が高い期間であり、産科、小児科のスタッフが連携して行う医療のこと。

◇重症度、医療・看護必要度

「入院患者へ提供されるべき看護の必要量」を測る診療報酬の要件として開発が進められた指標をいい、特定集中治療室管理料や急性期一般入院料などの算定に用いられる。評価は、医学的な処置（モニタリング及び処置等）等の必要性を示すA項目、患者の日常生活機能（患者の状態等）を示すB項目、手術等の医学的状況を示すC項目で行う。

◇主要診断群分類（MDC2）

Major Diagnostic Category の略で、DPC（診断群分類）において、疾病分野ごとに大別した主要診断群のことをいう。現在18分類ある。

◇紹介率・逆紹介率

紹介率とは、受診した患者さんのうち、開業医や他の医療機関から紹介状を持参した患者さんの割合、逆紹介率とは、病院から開業医さんや他の病院へ紹介した患者さんの割合をいう。

なお、算定方法は次のとおり（平成26年度診療報酬改定の「地域医療支援病院」の算定方法による）。

【紹介率】

$$\frac{\text{紹介患者の数}}{\text{初診患者の数}} \times 100 \Rightarrow \frac{\text{①}}{\text{③} - (\text{④} + \text{⑤} + \text{⑥})} \times 100$$

【逆紹介率】

$$\frac{\text{逆紹介患者の数}}{\text{初診患者の数}} \times 100 \Rightarrow \frac{\text{②}}{\text{③} - (\text{④} + \text{⑤} + \text{⑥})} \times 100$$

- | |
|--|
| ①紹介患者の数（初診に限る） |
| ②逆紹介患者の数（診療情報提供料算定患者数） |
| ③初診患者の数（初診料算定患者） |
| ④救急自動車により搬入された患者の数（初診に限る） |
| ⑤休日または夜間に受診した救急患者の数（初診に限る） |
| ⑥健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者の数（初診に限る） |

◇人生100年時代

100歳まで人生が続くことが当たり前になる時代のこと。平均寿命が伸びることにより、100年間生きることが前提とした人生設計の必要性が言われている。従来は、年齢に応じて「学ぶ・働く・老後を過ごす」という流れが人生の一般的な姿であったが、人生100年時代では年齢による区切りが無くなり、学び直しや再就職、社会貢献など、人生の選択肢が多様化すると考えられている。

◇新専門医制度

専門医の質を高め、良質な医療が提供されることを目的に、これまで各学会が独自に行っていた専門医の認定と認定プログラムの運用について、一般社団法人日本専門医機構が統一的に行うこととしたもの

◇全人的医療

身体的な治療に終始せず、病をもった人間として人格や社会的立場なども含め包括的にみるという意味

◇総合入院体制加算

十分な人員配置及び設備等を備え総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制及び病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制等を評価した加算をいい、入院した日から起算して14日を限度として算定できる。年間の手術件数や医療機能、第三者評価（加算1及び加算2）などが施設基準等となっており、「総合入院体制加算1」、「総合入院体制加算2」、「総合入院体制加算3」の3種類に分類される。

た行

◇第二種感染症指定医療機関（指定医療機関数は平成31年4月1日現在）

特別な対応が必要な感染症の患者さんを治療する医療施設。日本における感染症指定医療機関には、特定感染症指定医療機関（4医療機関）、第一種感染症指定医療機関（55医療機関）、第二種感染症指定医療機関（感染症病床を有するもの351医療機関）がある。

このうち、第二種感染症指定医療機関は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」6条3号に規定する急性灰白髄炎（ポリオ）、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、鳥インフルエンザなどの二類感染症を担当します。

◇団塊の世代

第一次ベビーブームが起きた昭和22年（1947年）～昭和24年（1949年）に生まれた世代を指す。

◇地域医療構想調整会議、地域保健医療福祉推進会議

医療法第30条の14に基づく二次保健医療圏等単位の会議をいい、地域の病院・有床診療所が担うべき病床機能に関する協議、病床機能報告制度による情報等の共有、都道府県計画（都道府県が作成する地域における医療及び介護の総合的な確保に関する目標を達成するために必要な事業計画）に盛り込む事業に関する協議及びその他の地域医療構想の達成の推進に関する協議を行う。

◇地域医療支援病院

医療機関の連携及び役割分担を図るため、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用の実施、地域の医療従事者の研修等を通じ、かかりつけ医等を支援する機能を備えた病院をいう。必要な支援に関する要件は、次のとおり。

- 1 現に、医療法で定める病院としての施設設備を備え、200床以上の病床を有すること
- 2 医療法で定める人員が配置されていること
- 3 他の病院又は診療所から紹介された患者さんに対し医療を提供していること
 - (1) 紹介率が80%以上
 - (2) 紹介率が65%以上、かつ、逆紹介率が40%以上
 - (3) 紹介率が50%以上、かつ、逆紹介率が70%以上
- 4 病院の建物、設備、器械又は器具を、院外の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療従事者の診療、研究又は研修のために利用させるための体制が整備されていること
- 5 救急医療を提供する能力を有し、一定の救急搬送患者を受け入れていること
- 6 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修を年間12回以上主催すること
- 7 集中治療室等の必要設備を有すること
- 8 集中治療室等の必置施設の構造設備が、厚生労働省令で定める要件に適合するものであること

◇地域包括ケアシステム

団塊の世代が75歳以上となる令和7年（2025年）を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みをいう。

◇地方公営企業法の全部適用

地方公共団体が経営する病院事業については、地方公営企業法第2条第2項により財務規定等が当然に適用される（地方公営企業法の一部適用）が、それ以外の規定については、条例で定めることにより適用（地方公営企業法の全部適用）することができる。これにより、病院事業管理者に対し、人事、予算等の権限が付与され、より自律的な経営が可能になる。

◇地方独立行政法人

地方独立行政法人法の規定に基づき地方独立行政法人を設立し、経営を譲渡するもの。地方公共団体と別の法人格を有することにより、地方公営企業法の全部適用と比べ、予算、財務、契約、職員定数、人事等の面で、より自律的・弾力的な経営が可能となることから、民間企業の経営手法を取り入れ、効率的な経営を実現することが期待される。

◇注射薬自動払出装置

処方データに基づき、注射薬の払出しを行うほか、ラベルなどの帳票類の印字などを行うこともできる。これにより、薬剤師の業務の効率化を図ることができる。

◇超高齢社会

総人口に対して65歳以上の高齢者人口が占める割合を高齢化率という。世界保健機関（WHO）や国連の定義によると、高齢化率が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」という。

◇通院不要的退院率

総合入院体制加算における施設基準の一つ。地域の他の医療機関との連携を図る指標の一つとして用いられ、4割以上の確保が求められる。

【計算式】

$$\frac{\text{診療情報提供書作成患者の数} + \text{転帰が治癒の退院患者（当該または他の医療機関で外来受診の不要な患者）の数}}{\text{直近1か月の総退院患者数}} \times 100$$

（外来化学療法又は外来放射線療法に係る専門外来並びにHIV等に係る専門外来・死亡を除く）

◇DPC

Diagnosis Procedure Combination の略で、診断群分類のこと。「診断（Diagnosis）」と「処置（手術、検査等）（Procedure）」を組み合わせたものという意味

◇デジタルX線TVシステム

X線を使い、TVモニターで体の透視像をリアルタイムに見ながら検査などを行うことができる機器。造影剤を使用した消化器、脊髓腔の検査や骨折、脱臼における整復に使用するほか、内視鏡を併用した検査を行う場合もある。動画を得ることができるため静止画だけでは困難な手技（腸閉塞に対してイレウスチューブを進める手技、小児排尿障害に伴う検査のために排尿時の様子をリアルタイムで確認し情報を得る手技など）が可能となる。

な行

◇二次救急

二次救急とは、入院や手術を要する症例に対する医療をいい、そのうち、いくつかの病院が当番日を決めて救急医療を行うことを輪番制という。

※初期救急（一次救急）とは、入院や手術を伴わない医療をいい、休日夜間急患センターや在宅当番医などが該当する。

※三次救急とは、二次救急まででは対応できない重篤な疾患や多発外傷に対する医療をいい、救命救急センターや高度救命救急センターが該当する。

◇二次保健医療圏

一般的な入院医療への対応を図り、保健・医療・福祉の連携した総合的な取組みを行うために市区町村域を超えて設定する圏域をいう。神奈川県内の二次保健医療圏は9圏域あり、平塚市民病院は「湘南西部（平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町）」圏域に属している。

◇2025年問題

団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）に達し、高齢者の中でより高齢のものが増加することに伴い、介護・医療費等の社会保障費の急増などが懸念されている問題

◇認定看護師

公益社団法人日本看護協会が認定する、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師をいう。

は行

◇PFM

Patient Flow Management の略で入院前から患者さんの状態を把握することで、リスク管理に資するほか、事前の説明を行うことで、患者さんの安心にもつながり、患者満足度の向上につながる。また、効率的な病床管理などによる経営改善も期待できる。

◇フラットパネルディテクタ

X線撮影においては、従来はフィルムを使用していたが、現在ではデジタルへと移行している。フラットパネルディテクタはデジタル画像を得るために、X線を受け取り、電気信号に変換する機器であり、高画質な画像を迅速に得られほか、被ばくリスクの低減にもつながる。

◇プレホスピタル医療

医師や看護師が、病院から現場に出場し、重症救急患者に対して最善の医療を迅速に提供する、病院（ホスピタル）に到着する前（プレ）の医療をいう。例えば、ドクターヘリやドクターカーに搭乗し現場で医療行為を行うことや、救急隊から引き継いだ傷病者の観察と治療を行いながら、病院までの搬送を行うことその他、救急ワークステーションや災害医療派遣チーム（DMAT）の活動等もこれに該当する。

ま行

◇マンモグラフィ

乳がんの早期発見のための乳房専用のX線撮影装置をいう。乳がんの初期症状である微細な石灰化や、セルフチェックや触診では分かりにくい小さなしこりなどを画像として捉えることができる。